

- 問1 北海道の知床半島は世界自然遺産に登録されており、地域の自然環境を保護しながら、その価値を観光客に伝える「エコツーリズム」が推進されています。この取り組みの具体的な事例として、最も適切なものはどれですか。 (2021年 熊本県公立入試 類似)
- 旭川市の動物園で見られるような、動物本来の動きを間近で観察できる行動展示の導入
 - 野生動物との接触や植生へのダメージを抑えつつ散策を楽しめる、高架木道の整備
 - ニセコなどのスキー場において、急増する外国人観光客に対応するための多言語表記の充実
 - 札幌市で冬の観光振興を目的に行われる、大規模な雪像を展示するさっぽろ雪まつり
- 問2 北海道の農業の土地利用の状況について、東北地方と比較して述べた文として正しいものはどれですか。 (2023年 福島県公立入試 類似)
- 東北地方は冷涼な気候のため米以外の畑作が中心だが、北海道は広大な土地のほぼすべてを米の栽培面積に割り当てている。
 - 東北地方は全耕作面積に占める米の割合が高く米単作的な傾向があるが、北海道は米以外の作物も大規模に栽培されている。
 - 北海道は全耕作面積に占める米の割合が日本で最も高く、米への依存度が東北地方よりも顕著である。
 - 北海道と東北地方はともに全耕作面積のほとんどが米で占められており、栽培面積の実数においても地域的な差異は見られない。
- 問3 北海道の北端に位置し、中心部に利尻山という火山をもつ人口約5000人の島々では、その豊かな自然景観が国立公園に指定されています。この地域の自然環境を活かした観光業とともに、古くから地域経済を支えてきた、高級ブランドとしても名高い特徴的な産業はどれですか。 (2019年 東京都公立入試 類似)
- 冷涼な夏の気候を活かしたレタスなどの高原野菜の栽培
 - 温暖な気候を利用したサトウキビの生産と加工
 - かつての金山跡を中心とした歴史的遺産による観光開発
 - 寒冷な海域の特性を活かした昆布の養殖や漁業
- 問4 北海道の農業では、1経営体あたりの経営耕地面積が約30.6ヘクタールと全国平均の約14倍に達する大規模な経営が行われています。一方で、自営農業従事者に占める65歳以上の割合が増加し、総農家数が減少しているという課題があります。このような背景から導入が進められている、ロボット技術やICTを活用した「スマート農業」の主な目的として最も適切な説明はどれですか。 (2021年 宮城県公立入試 類似)
- 手作業による伝統的な農法を維持し、農産物の希少価値を高めること
 - 労働力不足や高齢化に対応し、作業の負担軽減や効率化を図ること
 - 経営面積を縮小することで、小規模な家族経営農家を保護すること
 - 化学肥料の使用を一切禁止し、すべての農作業を人力に切り替えること
- 問5 地形図における縮尺の仕組みについて述べた文として、正しいものはどれか。なお、札幌市の北海道大学植物園から南東方向に位置する市役所（地点B）までの実際の距離を1km（1000m）とした場合を想定して答えなさい。 (2021年 茨城県公立入試 類似)
- 5万分の1の地形図では、図上の長さは5cmになる。
 - 2万5千分の1の地形図では、図上の長さは2cmになる。
 - 2万5千分の1の地形図では、図上の長さは4cmになる。
 - 5万分の1の地形図では、図上の長さは4cmになる。
- 問6 1977年から2017年にかけての北海道における稲作の動向について、作付面積と総収穫量はともに減少していますが、1ヘクタールあたりの収穫量は増加傾向にあります。このように、一定の土地面積から得られる収穫量が増える背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2019年 岡山県公立入試 類似)
- 化学肥料の使用を一切やめ、伝統的な手作業による農法に回帰したため。
 - 地球温暖化の影響のみによって、北海道全域が稲作に最適な亜熱帯気候に変化したため
 - 生産技術の向上や寒さに強い品種改良が進み、土地あたりの生産性が高まったため。
 - 政府の減反政策により、小規模な農家がすべて廃業して大規模農場に集約されたため。
- 問7 石狩川流域では、かつて植物が完全に分解されずに堆積した「泥炭地」と呼ばれる湿地が広がっていました。この土地を大規模に開発し、農地や市街地として利用するために行われた工夫として、最も適切なものはどれですか。 (2021年 茨城県公立入試 類似)
- 排水路を整備して水を抜き、別の場所から土を運び入れる客土を行う
 - 地面の下にある岩盤を削り、土地を平坦にしてから地下水を注入する
 - 周辺の山々から大量の水を流し込み、人工的な湖を作って水運を盛んにする
 - 大規模な植林を行い、地中の水分を吸収させて森林面積を拡大させる
- 問8 北海道の北東側に面し、千島列島へと連なる海域において、冬季にシベリア沿岸から流水が押し寄せることが大きな特徴となっている海域の名前を選びなさい。 (2024年 石川県公立入試 類似)
- オホーツク海
 - 太平洋
 - 東シナ海
 - 日本海
- 問9 北海道の根釧台地にある別海町と、内陸の盆地に位置する旭川市の夏の気候を比較した際、別海町に見られる特徴と、それに関連した土地利用の様子を述べた文として正しいものはどれですか。 (2016年 大分県公立入試 類似)
- 旭川市に比べて冬の積雪量が圧倒的に多いため、冬の間の産業として林業ではなく林業が中心となっている。
 - 旭川市に比べて降水量が極端に少なく、夏は干ばつに見舞われやすいため、大規模なダムと灌漑施設を利用した酪農が行われている。
 - 旭川市よりも夏の気温が高く、日照時間が長いため、広大な土地を利用した稲作や畑作が盛んに行われている。
 - 旭川市に比べて夏の気温が明らかに低く、沿岸部から広がる濃霧の影響を受けやすいため、多くの土地が牧草地として利用されている。
- 問10 北海道の太平洋側に夏に発生する濃霧は、周辺の気候や産業に大きな影響を与えます。この霧が発生する一因となっている、北から南下してくる寒流の名称として正しいものを選びなさい。 (2026年 島根県公立入試 類似)
- 対馬海流
 - 親潮
 - 日本海流
 - 黒潮
- 問11 北海道の石狩平野などでは、かつて枯れた植物が十分に分解されずに積み重なった、水分が多く農業に不向きな「泥炭地」が広がっていました。この土地で稲作などを可能にするため、他の場所から質の異なる土を運び入れて土壌の性質を改善する土地改良の手法を何といいますか。 (2022年 三重県公立入試 類似)
- 客土
 - 輪作
 - 段々畑の造成
 - 干拓
- 問12 明治政府が北海道の組織的な開発を進めるために「開拓使」という機関を設置した際、農業に従事して土地を切り拓きながら、同時に北方の警備という軍事的な役割も兼ねて配置された人々を何と呼びますか。 (2021年 神奈川県公立入試 類似)
- 御家人
 - 防人
 - 屯田兵
 - 地頭

答え合わせ・解説

問1	答え 2 野生動物との接触や植生へのダメージを抑えつつ散策を楽しめる、高架木道の整備	エコツーリズムは、地域の自然環境や文化の保全と、それらを観光客が体験する活動を両立させる仕組みを指します。知床では、観光客が地面を直接歩くことで高山植物などの植生を傷つけるのを防ぎ、さらにヒグマなどの野生動物との遭遇による事故を避けるために、地面から浮かせて設置された「高架木道」が活用されています。旭川の行動展示は施設の工夫、雪まつりはイベントによる振興、外国語表記はインバウンド対応であり、いずれもエコツーリズムの定義とは異なります。
問2	答え 2 東北地方は全耕作面積に占める米の割合が高く米単作的な傾向があるが、北海道は米以外の作物も大規模に栽培されている。	東北地方は伝統的に「日本の穀倉地帯」と呼ばれ、全耕作面積に占める米の栽培面積の割合が高い「米単作的」な傾向が強い地域です。一方、北海道も米の栽培面積の実数（ヘクタール）では最大級の規模を持ちますが、同時に小麦、豆類、てんさい（砂糖の原料）、じゃがいもといった畑作物や、大規模な酪農も並行して行われています。このため、農地の全体像を比較すると、北海道は東北地方よりも農業の多様性が高く、結果として全耕作面積に占める米の割合は低く抑えられることになります。
問3	答え 4 寒冷な海域の特性を活かした昆布の養殖や漁業	利尻島や礼文島は、美しい火山（利尻山）を中心とする景観から利尻礼文サロベツ国立公園に指定されています。この地域では、冷たい海流に育まれた良質な昆布が「利尻昆布」として全国的なブランドとなっており、漁業や養殖業が島にとって欠かせない基幹産業です。近年は、この伝統ある産業を維持するために、若手漁師の育成などの後継者支援も積極的に行われています。
問4	答え 2 労働力不足や高齢化に対応し、作業の負担軽減や効率化を図ること	北海道の農業は一戸あたりの経営面積が非常に大きいという特徴がありますが、農業従事者の高齢化や減少により、人手不足が深刻な課題となっています。スマート農業は、自動運転トラクターやドローンなどの先端技術を活用することで、大規模な農地での作業を少ない人数で効率よく行い、身体的な負担を減らすために導入されています。
問5	答え 3 2万5千分の1の地形図では、図上の長さは4cmになる。	実際の距離が1km（100,000cm）の場合、2万5千分の1の地形図では、100,000を25,000で割った4cmとして表現される。一方で、5万分の1の地形図では、100,000を50,000で割った2cmとなる。縮尺の分母が大きくなるほど、同じ実際の距離は図上でより短く表示されるという因果関係を理解しておく必要がある。
問6	答え 3 生産技術の向上や寒さに強い品種改良が進み、土地あたりの生産性が高まったため。	北海道の稲作は、かつては寒冷地ゆえの不作に悩まされてきましたが、農業機械の導入などの生産技術の進歩や、「ゆめぴりか」や「ななつぼし」といった耐冷性に優れた品種改良の努力により、単位面積あたりの収穫量（土地生産性）を向上させてきました。米の消費量減少に伴う減反政策などで作付面積や総収穫量自体は減っていますが、技術革新によって効率的な生産が可能になっています。
問7	答え 1 排水路を整備して水を抜き、別の場所から土を運び入れる客土を行う	石狩川流域に広がる泥炭地は、水分が非常に多く農業には適さない土地でした。そのため、開拓にあたっては排水路を設けて湿地の水を抜くだけでなく、他の場所から性質の異なる土を運び入れる「客土（かくど）」という作業が行われました。これにより、もともとの泥炭地は稲作などが可能な広大な農地や、人々が暮らす市街地へと作り替えられました。
問8	答え 1 オホーツク海	北海道の北側に位置するこの海域は、冬になるとアムール川から流れ込む淡水の影響で塩分濃度が低くなった海水が凍り、それが季節風に乗って南下してくる「流氷」が見られることで有名です。日本の周辺海域でこのような大規模な流氷が観測されるのは、この海域特有の現象です。
問9	答え 4 旭川市に比べて夏の気温が明らかに低く、沿岸部から広がる濃霧の影響を受けやすいため、多くの土地が牧草地として利用されている。	内陸の盆地にあり夏に気温が上がりやすい旭川市に対し、根釧台地に位置する別海町などは海霧の影響を強く受け、夏でも低温であることが統計資料などからも読み取れます。この冷涼な気候を背景に、土地利用においても耕地や果樹園ではなく、牧草地が圧倒的な面積を占めているのが根釧台地の大きな特色です。
問10	答え 2 親潮	北海道の東方沖を北から南へと流れる寒流は「親潮（千島海流）」です。夏に太平洋から吹く湿った季節風がこの冷たい親潮の上を通過することで、水蒸気が冷やされて霧が発生します。一方、黒潮（日本海流）は日本の南岸を北上する暖流であり、この霧の発生原因とは異なります。
問11	答え 1 客土	石狩平野などに広がる泥炭地は、水はけが悪く地盤も軟弱であったため、そのままでは稲作に適しませんでした。そこで、他の場所から肥えた土や粘土質の土を運び込む「客土」という大規模な土地改良が行われました。この努力によって、北海道は日本有数の稲作地帯へと発展しました。干拓は海や湖を仕切って水を出し陸地化すること、輪作は同じ土地で時期をずらして異なる農作物を育てることを指します。
問12	答え 3 屯田兵	明治時代、ロシアの南下政策を警戒して北方の防衛を強化する必要があったことから、兵士として訓練を受けながら農地の開拓を行う役割を担いました。当初は生活に困窮した士族が中心でしたが、のちに平民も加わり、家族とともに過酷な環境での開拓に従事しました。